

令和元年度米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

1. 日 時 令和2年2月21日（金） 13:30～15:30

2. 場 所 米子工業高等専門学校 大会議室

3. 出席者 【委員】

河 田 康 志（議長）（鳥取大学理事（研究担当、IT 担当）・副学長）

喜 多 英 治（茨城工業高等専門学校長）

福 本 哲 也（鳥取県教育委員会事務局高等学校課高等教育企画室長）

傘 井 浩 史（鳥取県中学校長会副会長・大山町立中山中学校長）

岡 村 整 諮（公益財団法人鳥取県産業振興機構理事長）

八 幡 泰 治（米子市総合政策部長）

片 山 良 孝（米子工業高等専門学校振興協力会副会長）

角 正 樹（株式会社 NTT データユニバーシティ取締役）

谷 口 美奈子（米子工業高等専門学校後援会会長）

大 谷 文 雄（米子工業高等専門学校同窓会会長）

【米子工業高等専門学校】

寺 西 恒 宣（校長）

稲 田 祐 二（副校長・校長補佐（教務））

新 田 陽 一（副校長・校長補佐（総務・企画））

蔵 岡 誉 司（校長補佐（学生））

山 本 英 樹（校長補佐（寮務））

松 本 至（校長補佐（専攻科））

筏 津 隆 広（事務部長）

吉 田 雅 人（総務課長）

景 山 修 司（学生課長）

【説明者】

新 田 陽 一（副校長・校長補佐（総務・企画））

※学科改組について

※令和元年度 年度計画及び自己点検・評価報告について

稲 田 祐 二（副校長・校長補佐（教務））

※グローバル教育について

4. 欠席者 堀田晶子（鳥取県子育て・人財局総合教育推進課長）
河野清尊（校長補佐（社会連携））

5. 議事

- ① 学科改組について
- ② グローバル教育について
- ③ 令和元年度 年度計画及び自己点検・評価報告について
- ④ その他

6. 校長挨拶

開会にあたり校長から、今後の学校運営や教育について、本校の発展そして地域の発展のために、いろいろ御指導いただきたい旨の依頼をもって挨拶とした。

7. 出席者自己紹介及び配布資料確認

8. 議長選出

総務課長（司会）から、評議員会の会長を委員の互選による選出依頼があり、委員から河田鳥取大学理事（研究担当、IT担当）・副学長が推薦され、異議なしで河田鳥取大学理事（研究担当、IT担当）・副学長を会長に選出した。

9. 議事

①学科改組について

令和3年度の設置を目指している学科改組について、資料に基づき、新田校長補佐（総務・企画）から概要の説明があった。

【質疑応答・意見交換】

各委員から以下の質問・意見があった。

- 函館高専は機械・電気・情報系は複合系学科に含まれ、化学・建築は独立しているが、その理由について情報を持っているか。

→（寺西校長）地域性もあると思うが、詳細については分からない。

○ 希望の学科に進めない学生に対しては、どのような配慮がされるのか。

→（寺西校長）入学時は特定のコースしか進路を希望しない学生がいるかもしれないが、分野によっては他コースでも学べるものがある。1年生の全コース共通科目で、他コースの面白さについて教えるとともに、就職先の情報を提供することで、他コースにも関心を持ってもらうということをやっていきたいと考えている。

また、コース配属までに希望調査や面談を細かにやり、その都度学生に情報を提供する予定であり、複眼的視野を広げていくように指導していきたいと考えている。

→分野とは違う次元で、どのような職種に就きたいかということも、学生のモチベーション維持に繋がる場合がある。

○ 1学科制にすることでコース間の行き来ができることがメリットでPRポイントだと思っていたが、コース配属までに進路をしっかりと考えることで、コース配属後のミスマッチを減らすということが目的と知り、納得した。

また、鳥取県の少子化が進んでいるが、今後の高専の学校規模について、なにか考え方があるか。

→（寺西校長）学校規模については国の政策にもよるので明確な回答はできないが、県立高校と共存できるよう、県外のOB・OGの子息や鳥取県に縁のある人を県外から集めたいと考えている。

○ 多くの中学校では2年生後半で高等学校調べに取り組んでおり、保護者についても、2年生の3学期頃に各高校の説明を行っている。そのため、前回説明時からの変更点を、いかに生徒や保護者にきちんと周知するかということが課題だと思っている。

→（寺西校長）学科改組の詳細を3月中には中学校へお知らせしたいと考えている。

○ どのように経済環境が変化しても応用がきくような人材育成の体系ができれば、非常に頼りになる機関になると思うので、期待している。

また、鳥取県内の企業を紹介する事業を無償で行っているなので、活用していただけたらと思っている。

○ 想像以上の速度で世の中が変わっているため、複眼的視野を持つ人材の育成は必要であり、ぶれずにやっていただきたい。

保護者の立場としては、学科改組に係る変更点の周知徹底をお願いしたい。

○ 入学後に学生の希望によりコース配属をする複合系学科の方が、学生の将来の成長を考えると良いと思う。

○ じっくり考えて分野を決めるのは非常にいいことだと思う。企業では様々な分野を経験していく中で特化していく。学生自身が頑張らなくて勉強しないと希望の専門分野へ行けないというモチベーションが湧く状況は、教育的にも非常にいいことではないかと思う。

○ 柔軟性を持った人材の育成という方向性を失わずに行っていただきたい。

また、学科改組による変更点については丁寧な説明をお願いしたい。何かだめだなと思ったときには柔軟に対応していくというシステムが必要だと思っている。

○ レイトスペシャリゼーションの導入は良いが、実際に行うにあたって、低学年で開設する専門基礎科目の工学基礎実験が大事になってくると思う。1年生がそれぞれの分野に興味を持つように実施していただきたい。

○ 各コースの定員が40人というのは、きちっと決められているのか。

→ (寺西校長) 学科定員200人は決められているが、コース配属については40人+ α の「+ α 」の部分を現在検討中である。

→ 例えば一部のコースに人気が出てくれば、時代に沿った色々なコースをつくれるのではないかと思う。10年単位で人気度合いによって、人事も変えていくという方針を持っておかないといけないように思う。

②グローバル教育について

英語教育と国際交流活動のスパイラルアップ型グローバルエンジニア基礎力養成事業（令和元年度～5年度）について、資料に基づき稲田校長補佐（教務）から事業概要の説明があった。

【質疑応答・意見交換】

各委員から以下の意見があった。

- 高専機構の公募は次年度もあるのか。

→（稲田校長補佐）若干あると思う。

- 1年生から徐々に英語を取り入れるのではなく、いきなり英語をメインにするような授業を取り入れると、学生の英語に対する恐怖感をなくすメリットがあるので、外国人教員が授業を担当するのは良い方法だと思う。

- 言語能力は後からついてくるので、コミュニケーション能力やグローバルマインドを醸成して欲しい。

- 保護者からは、後援会からの国際交流に関する助成金が特定の学生に偏っているのではないかという意見もある。校内で実施する企画にも助成できると思うので、留学は二の足を踏んでしまうような、英語に苦手意識がある学生たちも参加できる様々な企画をして欲しい。

→（寺西校長）後援会からの助成金については、現在見直し中である。

→（青砥准教授）幅広くいろいろな学生が参加できるような企画をしていきたい。

③令和元年度 年度計画及び自己点検・評価報告について

令和元年度 年度計画及び自己点検・評価報告について、新田校長補佐（総務・企画）から説明があった。

【質疑応答・意見交換】

各委員から以下の意見があった。

- 米子高専の学生の活躍が、周辺学校への刺激にもなるので、様々なところで活躍できる人材を育成していただきたい。

- 連携強化という視点で年度計画を見させていただきたい。また、色々と提案をしたいと

考えているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

○ 授業評価アンケートという記述があるが、今年は大体どのような傾向だったのか。

→（稲田校長補佐）評価点の低い教員には改善の依頼をしている。

→結果は公開されているか。

→（稲田校長補佐）基本的には公開されている。

④その他

なし

10. 校長挨拶

閉会にあたり校長から、改善すべき点は改善し、学生が何を身につけたかに重点を置きながら、地域や学生・保護者に満足してもらえる学校を作っていきたい旨の挨拶があり、閉会となった。